

2020 年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

- 提出日 : 2022年 10 月 30 日
- 事業名 : 地域の森林を守り育てる生業創出支援事業
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金（幹事団体）
特定非営利活動法人自伐型林業推進協会
ランドブレイン株式会社

1 実績値

【資金支援】 * 進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
No1 持続的な林業を実践するための基礎的な知識・技術・資格の取得	チェーンソー、バックホー、刈払機等の必要な安全講習を受講し、修了証を有しているか。	持続可能な林業に携わるメンバーが必要な研修を受講し、修了している。	2022年3月（1年目終了時）	森林確保の課題から半林半 X 事業に遅れのあった百は、担当者地震は一部研修終了済だが、今後も未受講研修を受講の予定。 ワイルドウインド、FORESTWORKER は、ディバースライン、皐月屋は、全てのメンバーが必要な安全講習を受講済みである。	2
No2 事業期間を通じた林業施業の継続による経験値の向上	年間の施業計画に基づいて、着実に現場で林業施業することが継続できているか。	年間 100 日以上は林業施業継続する。	2023年3月（2年目終了時） 2024年3月（事業終了時）	百は、山林確保の課題から半林事業スタートが遅れていた。本年度から確保した山林にて自伐型林業を開始。天候や指導者スケジュールの関係で目標値レベルには至っていないが、4~5 日/月ペースで作業を実施している。8 月までの時点	3

				<p>では、自伐施業を実施するための作業道作りを実施中。</p> <p>FORESTWORKER、皐月屋は、林業を主業として事業を行う会社であり、冬季の施業が出来ない時期を除き、年間を通じた林業施業を実施している。</p> <p>ワイルドウインドは、夏期はキャニオニング等のアウトドアツアーを主業とするが、それ以外の期間は自伐型林業に取り組む。</p> <p>ディバースラインは、スノーボードのアスリートらの団体であり、冬季スポーツのシーズンやトレーニング等の時期以外は自伐型林業および特殊伐採（民家等の危険木伐倒）を行っており、年間100日以上の実業を行っている。</p>	
No3 各地域で持続的な林業手法を検討し実践を続けられる拠点構築	実行団体のメンバーが林業に携わり、地域で生活していく基盤が整っている	半林半Xの仕事をしながら年間を通じて地域で暮らせるための基盤が整っている。	2024年3月 (事業終了時)	<p>百は、半林事業・半X事業ともに本年度スタートした。まだまだ事業実施の基盤整備には時間がかかる。</p> <p>ワイルドウインドは、アウトドアツアー（キャニオニング、カヌー等）のツアーがコロナ禍の影響で思うようにツアー参加者が伸びていなかったが、2022年度からはツアー参加者も回復してきている。また、自伐型林業の有料研修も事</p>	2

				<p>業として開始した。今後それぞれの発信力を高めて、半 X の収益力を高めていくことが課題である。</p> <p>FORESTWORKER は、林業主業とする社員のほか、農業、福祉、観光の各分野と連携しながら、半林半 X を実践するメンバーを社員としてではなく業務委託契約を結び、新たなライフスタイル構築を支援している。</p> <p>ディバースラインは、アスリートとしてのインストラクターとしての活動、スポンサー確保の他、特殊伐採等を行い収益確保を目指している。</p> <p>皐月屋は、林業を主業としており、生産した木材を製材品や薪として加工し付加価値を高めて販売することやホップ栽培を半 X 事業と位置づけ事業を進めている。</p>	
No4 持続的な林業を実施するための継続的な技術のスキルアップ	持続可能な林業を実施するための技術・経営を学び続けられる環境があるか。	持続可能な林業を実践する指導者の下で施業指導が受けられている。 事業終了後も指導を受けながら、技術を研鑽	2022年3月（1年目終了時） 2024年3月（事業終了時）	<p>林業施業が遅れていた百に関しては、自伐型林業初心者であることから指導者との密な関係性が重要だが、指導者が頻繁に通える距離ではないため頻度不足が課題。が、最近では実施してきた講習会にて、近隣の仲間が生まれ、切磋琢磨できる関係性が生まれている。初心者にも関わらず指導者が頻繁に来れない穴をうめている。</p>	1

		していける環境がある。		<p>ワイルドウインドは、岡橋講師の指導の下、ワイルドウインド代表の山下氏がサポートし、着実に技術習得を進めている。</p> <p>FORESTWORKER は、野村講師の指導の下、草川氏が自伐型林業モデル林づくりに取り組む。</p> <p>ディバースラインは、野村講師の指導の下、高橋夫妻が中心となり、壊れない道づくりに取り組む。また施業に関しては自伐協四宮も実践アドバースを行っている。</p> <p>皐月屋は、野村講師に以前より指導を受けており、講師の指導を定期的に受けるほか、社員の加藤氏や智頭複業組合から受け入れた研修生がOJTで道づくり、定性間伐の技術習得を行っている。</p>	
No5 林業施業に最低限必要な機材の確保	チェーンソー、バックホー、林内作業車等の必要な機材が継続的に使えるようになっているか。	チェーンソー、バックホーが継続的に使える環境にある。林内作業車等により継続的な材の搬出が可能な環境にある。	2023年3月(2年目終了時)	<p>百は、一部大型の必要機材についてレンタルでの運用を行っている。先方都合で事前の予定通りレンタルできないことがあり、改善が必要。ワイルドウインドはバックホーを谷林業から提供を受け、施業を実施している。</p> <p>FORESTWORKER 及び皐月屋は、林業会社であり、自伐型林業に必要な機材は確保できている。</p>	1

<p>No6 自治体の担当者（林業や移住定住等）から、実行団体が必要なアドバイスが受けられる関係構築</p>	<p>実行団体と自治体の各部署（地域づくり、移住、林業等の産業振興関連部署）とが気軽に話ができる関係を有しているか。行政担当者が必要なアドバイスを提供してくれるか。</p>	<p>必要な時にいつでも相談できる関係にある。</p>	<p>2022年3月（1年目終了時）</p>	<p>各実行団体は行政担当者に事業説明を実施、休眠預金事業に興味関心が高く、自治体によっては積極的に協力している。</p> <p>百は、代表が元地域おこし協力隊だったこともあり、フォーラムでも冒頭に町長挨拶があるなど行政担当者に相談できる状態にはある。しかしながら行政事態の自伐型林業への関心はまだ低く、百の活動をサポートするには至っていない。</p> <p>ワイルドウインドは、活動する吉野町、川上村は林業地であり、地域の小規模林業者程度の位置づけである。一方隣接する天川村や御杖村等は自伐型林業の導入に積極的であり、地域おこし協力隊の指導など連携しながら進めている。</p> <p>FORESTWORKER は、地元の庄原市の林業関係課が自伐型林業の積極推進には至っていないが、移住定住の担当課が観光案件での事業に関して積極的に協力してくれている。また県の担当者とも意見交換をしており、良好な関係を構築している。</p> <p>ディバースラインは、地元佐久市の林業担当課とこの休眠預金事業をきっかけに良好な関係が構築出来、市有林等の管理などを行う可能性も出てきた。</p>	<p>2</p>
--	--	-----------------------------	------------------------	--	----------

				<p>皐月屋は、智頭町担当課とも非常な良好な関係構築が出来ており、事業に協力的である。</p>	
<p>No8 A材、B材、C材の材質に応じた適切な販路の確保</p>	<p>材質に応じた販路があり、販売を開始できているか。材質に応じた販路があり、販売を継続できているか。</p>	<p>材質に応じた適切な販路があり、販売が継続できている。</p>	<p>2023年3月(2年目終了時) 2024年3月(事業終了時)</p>	<p>百は、自身の宿の建築には自分達で伐採・製材した物を使用しているが、販売用の木材製材の段階に至っていない。</p> <p>ワイルドウインドは、吉野林業地で林齢の浅い山林の定性間伐と道づくりをメインに施業しており、搬出量は少ないが地元で木材市場があり販路は確保出来ている。</p> <p>FORESTWORKERは、林業事業者であり、隣接する新見市の市場等に出材を行っている。</p> <p>ディバースラインは、林業の技術習得が主であり出材量は少ないが、木材生産は行っている。</p> <p>皐月屋は、林業事業者であり、智頭町内の石谷林業の市場等に出材を行っている。</p>	3
<p>No9 活動をPRする紹介パンフやHP等での定期的な情報発信の実施</p>	<p>HP・SNSが立ち上がり、定期的に情報発信出来ているか。活動実績等を取りまとめたPR資料があるか。</p>	<p>HPやSNS等で1月1回以上の活動状況の発信が継続している。団体紹介資料がある。</p>	<p>2023年3月(2年目終了時)</p>	<p>百は、月に4~5回以上、特にSNS(TW、FB等)で活動の発信を行っている。宿泊予約用のHPも作成済みである。</p> <p>ワイルドウインドは、自社HP、SNS等で活動PRを行っている。より魅力的なHPデザイン、効果的な事業PRについて検討しているところで</p>	2

				<p>ある。</p> <p>FORESTWORKER は、自社 HP、SNS 等で活動 PR を行っている。研修実施や山林整備の様子などを定期的に SNS で発信している。</p> <p>ディバースラインは、ロゴや活動の動画づくりなど魅力的なコンテンツを揃え、HP 等で公開できている。フェイスブックでの発信も積極的である。</p> <p>皐月屋は、事業開始したところである。フェイスブック等で活動を定期的に発信してきたが、今後、半林半 X の活動を自らの媒体でどう発信していくか検討中である。</p>	
No10 地域住民や外部からの相談への対応や活動 PR を行うための組織態勢・ネットワーク構築	講演等で実行団体が組織を PR できているか。地域内外とのネットワーク構築ができており、情報交換は積極的に行っているか。	講演等でいつでも発表できるような紹介資料がある。関係する地域内外の団体・個人と情報交換を行っている。	2023年3月(2年目終了時) 2024年3月(事業終了時)	<p>百は、半林・半 X 事業ともにスタートをきったばかりであり、講演会等の依頼はないが、取材がくることがあり、都度対応している。</p> <p>ワイルドウインドは、吉野の大規模山林所有者とのネットワークを有しており、活動を通じて技術習得したメンバーを山守として地域に定着させる動きつなげていこうとしている。</p> <p>FORESTWORKER は、9/3に「森を拓く。森をデザインする」というタイトルでフォーラムを開催した。ホームページや YouTube を見た人</p>	2

			<p>が入社希望したり、山林管理を依頼するなどの動きに着実につながっている。</p> <p>ディバースラインは、地域の林業関係者だけでなく、アスリートとも連携し今後のキャリア形成等の動きに発展させていこうとしている。また企業のバックアップも受けている。</p> <p>皐月屋は、智頭ノ森ノ学び舎や智頭町副業組合等と連携しながら、地域の自伐型林業者育成・生業づくり、支え合う地域づくりについて、定期的な勉強会等を重ねている。</p>	
--	--	--	---	--

【非資金的支援】 *進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
No1 持続的な森林施業により収入を得る仕組みの構築	次年度以降の持続的な森林施業の継続により、木材を伐出・生産し、収入を得る見込みが立てられているか。	林業により年収100万円以上確保出来ている。	2024年3月 (事業終了時)	<p>百は、現時点で林業で収入を得られる段階に至っていない。</p> <p>ワイルドウインドは、素材生産による売上は小さいが、代表山下氏の林業指導講師料など林業関連収入を合わせれば目標達成している。</p> <p>FORESTWORKER は、林業事業体であり、林業収入は既に目標達成している。</p> <p>ディバースラインは、林業での収入はまだ目標に達していない。</p> <p>皐月屋は、林業事業体であり、林業収入は既に目標達成している。</p>	2
No2 林業以外の複業で収入を得る仕組みの構築	林業以外の複業により、地域内外に対してサービス等の提供が出来るか。次年度以降も、複業で収入を得る見込みが立てられているか。	半林半 X で年収200万円以上確保できている。	2024年3月 (事業終了時)	<p>百は、半林・半 X 共にまだ年収200万円以上確保できていない。</p> <p>ワイルドウインドは、半 X 事業（キャニオニングツアー等）により、目標を達成できている。</p> <p>FORESTWORKER は、林業収益が主であり、半 X（観光、農業）は小さいが、目標収益は確保出</p>	2

				<p>来ている。</p> <p>皐月屋は、林業収益が主であり、半 X（製材・薪生産、農業）は小さいが、目標収益は確保出来ている。</p>	
No3 継続的に施業出来る山林の確保	事業期間中施業継続できる山林の契約が出来ているか。今後5年間は施業を継続できる山林の見込みがあるか。	1年目終了時に一人当たり5haの施業面積を確保出来ている。事業終了時に一人当たり15ha程度の施業山林を確保出来ている。	2022年3月（1年目終了時） 2024年3月（事業終了時）	<p>百は、2022年度から施業林確保ができた。</p> <p>ワイルドウインドは、施業林確保出来ている。（吉野の大規模山林所有者の支援を得ており、施業林確保に問題は今のところない）</p> <p>FORESTWORKERは、施業林確保出来ている。（森林組合施業が合わなかった山林所有者がフォレストワーカーに山林提供）</p> <p>皐月屋は、智頭町内の山林を確保しており、次年度以降施業出来る山林について自社で山林所有者に掛け合うなどの取組を行っている。</p>	2
No4 担い手育成のためのカリキュラムづくり	地域で林業を継続していくために必要なスキルが棚卸しされているか。スキルを身につけるためのクリティカルパスが整理されているか。	地域で持続的な林業を継続するために必要なスキルが整理されている。必須スキルを身につけるためのプログラムが整	2023年3月（2年目終了時） 2024年3月（事業終了時）	<p>百は、引き続き、林業スキルの獲得を目指している。必須スキルを身につけるために、約3か月に1度、専門家の指導を受けている。</p> <p>ワイルドウインドは、岡橋講師の指導の下、実践的な研修が行える環境にあり、吉野地域という伝統的な林業地で講師以外からも林業に関する知識・技術を得られる理想的な環境にある。</p>	2

		理されている。		<p>必須スキルを身につけるためのプログラムとして言語化したいが、職人的な暗黙知のところもあり、プログラム整理というところまでは至っていない。</p> <p>FORESTWORKER は、林業技術者の自社育成については、個別の技術チェックを行うしくみがある。但し、自伐型林業で自立できる行政支援がないことが課題。</p> <p>ディバースラインは、自らが技術習得の段階であり、長野県佐久地域に必要な林業技術を体系化できている段階にはまだない。</p> <p>皐月屋は、古くからの林業地である智頭にて、志ある林業者が集う場所であり、地域にあった林業技術の蓄積を有す。これら暗黙知を形式知に変え、林業者の技術習得の効果的に行えるようなプログラム化までは至っていない。</p>	
No5 担い手育成の継続実施のための資金確保	担い手育成に必要な費用が揃っているか。担い手育成に必要な費用の確保について、アクションを起こしているか。	担い手育成に必要な費用が揃えている。今後受け入れるためのファンドレイジングに着手している。	2023年3月(2年目終了時) 2024年3月(事業終了時)	<p>百は、今後を見据えた担い手育成は、これから着手。ただし、専門家講習会に参加する地域内外の人材の参加があり、候補が4人ほどいる。</p> <p>ワイルドウインドは、育成に必要な費用を試算し有料研修プログラムを試行している。</p> <p>FORESTWORKER は、自社の社員の技術習得を</p>	2

				<p>OJT で進めており、教育に対する費用について未だ算出はしていないが、費用算出のための実績を積み上げているところ。庄原市から林業研修事業の提案もあったが、実施には至らなかった。林業体験プログラムを観光事業で実施予定。</p> <p>ディバースラインは、自らが講師招へいしたりする費用を積み上げている。そのために必要な費用の捻出はこれからの課題。</p> <p>皐月屋は、智頭町副業組合から研修生を受け入れて現場作業を通じた教育を行っている。費用算出のための実績を積み上げている。研修生の人件費を複業組合が補填している。</p>	
No6 実行団体の持続的な収益確保の仕組み構築	年度毎の予算計画が立てられ管理されているか。実行団体が持続的に経営していくための利益が確保出来ているか。	予実管理が為されている。林業を通じた団体の利益が生まれている。	2022年3月（1年目終了時）以降毎年末2024年3月（事業終了時）	<p>百は、2022年度以降事業に沿った活動を進めているが、収益確保については今後進めていく。</p> <p>ワイルドウインドは、代表山下氏が自ら経営し、利益を上げることができている。今後、研修事業やアウトドア事業を展開することで安定的に経営できる見込みがある。</p> <p>FORESTWORKER は、林業事業体としての経営は成立しているが、保育・育林といった非常に負荷の高い作業を若手中心にこなしており、将来的に自伐型林業を主として事業を進められる</p>	2

				<p>かは行政の政策次第。</p> <p>ディバースラインは、スポーツアスリートのキャリア形成を目的の一つにしており、自伐型林業の施業技術向上を通じて自立を目指す段階で、半林半 X での利益目標はあるが、未だ利益を生み出すという段階ではない。</p> <p>皐月屋は、自伐型林業を主業とする林業事業体であり、継続的に利益を生み出すことができている。</p>	
No7 実行団体のメンバーが主体的に活動する組織基盤構築	組織のコアとなるメンバーが自主的に組織運営できるようになっているか。実行団体のビジョン・ミッションが明文化されているか。	コアメンバーが自律的に組織を運営している。実行団体のビジョン・ミッションが定まっている	2023年3月(2年目終了時)	<p>百は、コアメンバーは確定しているが、事業実施については組織外の協力者を必要としている。なお、組織運営は、本事業担当者以外を含めた組織のコアメンバーで推進している。</p> <p>ワイルドウインドは、代表山下氏と事務協力を行うメンバーがおり、自主的な運営が出来ている。事業目標も明確である。</p> <p>FORESTWORKER は、代表田村氏と内部管理を行う白田氏が事業を進め、運営体制が確立できている。</p> <p>ディバースラインは、高橋氏・天野氏の夫婦が実質的な経営主体であり、運営には問題がない。事業目的も明確。</p>	2

				<p>皐月屋は、代表大谷氏が家族の協力もえながら経営管理を行っている。自伐型林業を主軸に地域に生業をつくるという事業目的も明確。</p>	
<p>No8 2～3年後を見据えた事業計画策定</p>	<p>2～3年毎の事業計画が策定されているか。</p>	<p>2～3年の事業期間の計画が立てられている。</p>	<p>2023年3月（2年目終了時）</p>	<p>百は、理想の将来像は描いているが、計画まで落とし込めていない。先を見据えるより、スキルの獲得、半林・半X事業の人材確保が先決である。</p> <p>ワイルドウインドは、明確な将来計画は立てられていない。</p> <p>FORESTWORKERは、機材購入のための銀行借入も行っており、従業員8名雇用する事業体であり、事業計画は立てられている。</p> <p>ディバースラインは、明確な将来計画は立てられていない。</p> <p>皐月屋は、機材購入のための銀行借入も行っており、将来的な事業計画は立てられている。</p>	<p>2</p>
<p>No9 地域の持続的な林業に対する支援施策の実装および検討サポート</p>	<p>持続可能な複業型林業を継続するために必要な行政の支援施策について、行政側が政策検討しているか。 持続可能な複業型林業</p>	<p>作業道補助や機材リース等に対する適切な補助制度を自治体が創設検討している。</p>	<p>作業道補助や機材リース等に対する適切な補助制度を自治体が創設検討している。</p>	<p>百は、県としての人工林の作業道補助は他県よりも充実しているが、百が現在施業している広葉樹林の作業道補助制度がない（間伐補助はあるが要求されている間伐率が高く、自伐型林業では使えない）。町にサポートを求めているが、反応が鈍い。</p>	<p>2</p>

	を継続するために必要な行政の支援施策を、自治体を実施しているか。	適切な補助制度がある。	適切な補助制度がある。	<p>ワイルドウインドは、吉野という古くからの林業地で直接行政と折衝することはないが、奈良型作業道等の補助メニューを活用し事業を行っている。</p> <p>FORESTWORKER は、庄原市の林業担当課が自伐型林業に関心が薄く、政策の検討には未だ至っていない。移住担当課は協力的。一方で広島県は理解を示しているところであり、今後の政策実装にむけて継続アプローチを行っている。</p> <p>ディバースラインは、行政が本事業に興味を頂いており、支援施策の検討までは至っていないが、行政の興味関心を引くことができている。</p> <p>皐月屋は、智頭町が半林半 X の生業づくりを全面的に支援しており、政策実装もおこなっている。非常に良好な関係である。</p>	
No10 生産材の付加価値向上システム構築に向けた取り組みへの着手（地域内バイオマス利用や自家製材等）	行政や民間企業、地域住民等の関係者ととも、生産材の付加価値向上の取り組みについて検討が進められているか。	生産材の高付加価値化について検討していない。	2024年3月 (事業終了時)	<p>百については本件は今後伴走支援しながら取り組んでいく。</p> <p>ワイルドウインドは、製材にも関心がありこれから知識・技術習得を行っていきたいと考えている。(谷林業の協力)</p> <p>FORESTWORKER は、木材を市場に出材するのが主であるが、デザイナーと組んで商品開発を</p>	2

				<p>行うなどの取組もはじめています。</p> <p>皐月屋は、既に製材機を持って折り、半 X の中で製材品・薪販売等に着手している。</p>	
--	--	--	--	---	--

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み▼
2.アウトカムの状況
<p>A：変更項目</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値</p>
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
活動地が屋外のため適切な距離を取って対応した
6. 実行団体の進捗に関する報告
<p>【百】 森林獲得の関係で予定より半年遅れているが、林業技術を着実に積み上げている。半 X についても同様。</p> <p>【ディバースライン・ワイルドウインド】 半林も半 X もある程度の水準にあり、自走に向けて日々取り組みを進めている。</p> <p>【FORESTWORKER・皐月屋】 林業事業体であるので、技術的な問題はないが、半 X の部分の充実に向けて取り組んでいる。</p>

③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

・自伐ニュース（自伐協自社ウェブメディア）で発信

2.広報制作物等

・自伐協会報誌「200年の森をつくる」において紹介

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

※他 4 団体事業開始の 1 年後に採択された阜月屋については本報告書の対象としていません。

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	半林事業	中塚・上垣・荒井	NPO 法人自伐型林業推進協会
内部	半 X 事業	上原・田中・中島	株式会社ランドブレイン
内部	組織基盤	古瀬・間辺	NPO 法人地球と未来の環境基金

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

1 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
実行団体のメンバー	1 ベテラン技術者からの継続的な指導の有無 2 継続的な山林施業の実施状況 3 実行団体もしくはそのメンバーに施業が任されている民有林数	1 継続的な指導が受けられている 2 施業可能な期間において週 2 日以上の施業が継続できている。 3 5箇所（各地域1箇所）	2024 年 3 月（事業終了時）	百は、山林確保の問題より半林事業の技術取得スタートが遅れたが、2022 年度以降技術者より 3 か月の 1 度のペースで技術指導を受けている。山林施業日数は週 2 日以上に満たないが、山主から施業を任されている森林地区にて自伐型林業に必要な作業道づくりを行っている。 機材レンタルの問題もあり ワイルドウインド・FORESTWORKER・ディバースラインの 3 団体については、3 点ともできている。

<p>実行団体のメンバー</p>	<p>1 林業施業を実施するための拠点がある 2 実行団体自身が OJT を実施出来るようになっている 3 必要な機材が使える状況にある。</p>	<p>1 5箇所（各地域1箇所以上） 2 OJT を実施している。 3 所有もしくはレンタル等により機材が使えるようになっている。</p>	<p>2024年3月 (事業終了時)</p>	<p>百は、林業作業地域の側に半 X 事業実施場所があるため、そこを拠点とすることができている。自伐型林業への取り組みが本年度からのため、自身が OJT をする立場にはあらず、現在も教えを乞う段階ではあるが、一部機材の使用ができるようになっている。 ワイルドウインド・FORESTWORKER・ディバースラインは、山林整備され、実践施業に向かっている。</p>
<p>実行団体のメンバー</p>	<p>1 実行団体活動自治体の自伐型林業への協力 2 自治体もしくは隣接自治体に木材市場・木材加工場等の A・B・C 材販路がある。</p>	<p>1 協力関係が構築される 2 隣地域（概ね 30km 圏内）にそれぞれ販路が確保される。</p>	<p>2024年3月 (事業終了時)</p>	<p>百が主催したフォーラムに自治体（町長）が出席したが、まだ自治体からの直接的な支援は得られていない。なお、販売用としての木材づくりや販路開拓はまだだが、半 X 事業の宿を建築する際の木材は獲得した。 FORESTWORKER は、林業がメインだが自治体の移住関係部署を関係を構築できている。 ディバースラインは、自治体と協働しつつ、副業としての林業技術を着実に積み重ねている。 なお、全国に作業道開設補助金支出の事例がないわけではないため、各自治体とコミュニケーションを継続もしくは深化していくことができれば、政策提言サポート等ができるのではないかと。</p>
<p>実行団体のメンバー</p>	<p>1 地元のメディアや広報誌等での取材等を受け</p>	<p>① 5 回以上 ② 1 回以上</p>	<p>2024年3月 (事業終了時)</p>	<p>百は、メディアに半 X 事業の活動が取り上げられ、半林半 X に取り組む姿が紹介された。またインスタ</p>

	<p>る。</p> <p>2 活動が認知され、地域内外の講演等と呼ばれる。</p> <p>3 実行団体の地域にて自伐型林業（長期多間伐施業）による施業（施業委託を含む）を希望する山林所有者の数</p>	<p>③15 人以上(各地域3 名以上)</p>		<p>グラムや YouTube など SNS メディアを活用し、完成した作業道の様子や宿での地域コミュニティ交流の場などを逐一発信している。その際、百の主軸メンバーをゴレンジャーにたとえ、それぞれのイメージカラーで発信をするなど、イメージの定着に工夫を凝らしている。講演会等への招聘は現在なし。近隣在住者が作業中に見学にくるなど、山林保有者か否かは不明だが、地域住民は興味を持ち始めている。</p> <p>ワイルドウインドは、自身の WEB サイトにて、森づくり活動について発信している。</p> <p>http://www.wild-wind.org/index.html</p> <p>FORESTWORKER は、黒 T+迷彩パンツ制服での活動でブランディングを工夫を行っている。</p> <p>ディバースラインは、動画を作成し、自身の活動を分かりやすく、かつ格好よく訴求している。</p> <p>https://www.youtube.com/watch?v=Nrb4a7iegCA</p>
--	--	--------------------------	--	---

【非資金的支援】 赤背景色セルは提出時削除します

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
1 複業モデル実践者の人数 2 半林半X・複業モデル実践者の働き方の満足度	1 複業モデル実践者の人数 20人 2 ワークライフバランス・複業スタイルに満足している人は今後も満足度が高い状態が維持される。	2024年3月（事業終了時）	百においては、自伐型林業実践者を近隣地区を含めた地区にて育成中。現在、担当者以外に4名が、自身の本業のほかに林業の実践的学びを深めている。現在の進捗スピードから考えると、事業終了時の目標20人はまだ遠い。 なお、上記の百含め、ワイルドウインド・FORESTWORKER・ディバースライン共に、全団体、それぞれ複業モデルに対する満足度は現在高いと思われる。また、オンライン会議や出張時に伴走しているなかで、それぞれ複業に対するモチベーションも高いと感じられる。
1 次年度以降施業山林や機材が確保され、担い手育成が可能な地域数 2 次年度林業研修・OJTを実施する地域数	1 5箇所（実行団体すべて） 2 5箇所（実行団体すべて）	①2022年3月（1年目終了時） ②2024年3月（事業終了時）	百は、継続的に作業できる山林があるが、一部大型機材は近隣より借り出しているため都度依頼が必要である。 ワイルドウインドは、研修事業メニューを持っている。 FORESTWORKERは、林業メインで、新たなメンバーを育成することができている。
1 実行団体が継続的に事業継続していく収益がある。 2 実行団体の組織態勢が明確になっており、メンバーの	1 事業受託・補助・助成金・企業連携等の新たな収益源が確保される。 2 組織としてメンバーが役割し事業を進めている。	①2023年3月（2年目終了時） ②2024年3月（事業終了時） ③2024年3月（事業終了時）	百は、山の確保の問題から半林事業スタートが遅れたため、2023年度以降、補助金・助成金などの申請を行う予定。組織体制は明確であるが、それぞれが別の事業を担っているため、本事業については組織外（林業施業希望者や、学生など）にリソースとなるキーパーソンが必要。半林半X事業ともに、組織のビジョン・ミッションは明確化しているが、半

<p>役割分担ができて いる。</p> <p>3 中長期的な事業計画に沿って事業運営されている。</p>	<p>3 組織のビジョン・ミッションが明文化され、事業計画にそった運営が為されている。</p>		<p>林事業については製材可能時期、半 X 事業についてはターゲットの明確化やその確保など、より具体的な道筋を計画として立てる必要がある。</p> <p>4 団体ともに、組織基盤は法人化もされ整備されている。各団体それぞれおビジョン・ミッションは明確なので今後中長期的事業計画までの確認していく。</p> <p>→月 20 万収入になるくらいの技術力を身に着ける →集中した研修で集中して手に付ける 例) バックホー3 か月で 100 時間</p>
<p>1 持続的な林業に対する自治体の支援施策がある。</p> <p>2 関係各所の情報交換・横連携ができるように実行団体が仕掛けている。</p> <p>3 林業に関する 6 次産業化の取組みが実行されている。</p>	<p>1 5 回以上</p> <p>2 自治体の複数部署に対して事業説明を年 1 回以上実施している。</p> <p>3 行政や企業と連携した地域産材付加価値化の取組みが行われる。</p>	<p>2024 年 3 月（事業終了時）</p>	<p>百は、自治体における林業支援施策はない。自治体に対する情報共有の場はないが、実行団体が地域の情報を獲得できるような場づくり（ももの宿のバーday や、地域の憩いの場での情報収集など）ができている。</p> <p>全団体、自治体へのアプローチや関係性構築は実施しているが、FORESTWORKER の自治体は現在難あり。</p> <p>6 次産業化については、それぞれ企画・実行中である（例：しいたけ・薪：「大谷さんの薪」（ある種「ブランド化」といっても過言ではないものもある）</p>



2 アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」 (※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>短期アウトカムのうち、実行団体自身が達成すしなければならない数値や目標に関して、団体によって進捗状況にばらつきはあるが現時点達成不可能な確定的な阻害要因はない。ただし、行政へのアプローチなど。期間中に困難な項目もあるため、適切に伴走していく必要がある。</p>

A) 事業の改善状況の評価

1 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	1) 資金分配団体内の、事業の運営管理体制（進捗管理の仕組み、事業	1)活動報告書により状況の共有が出来ている。一方で伴走支援者の活動量に差が	資金分配団体内の定例 MTG にて、実行団体の進捗が見えにくいことが指摘あり。定例 MTG 時の伴走者からの報告ではなく、実行団体からの報告フォーマットの提出とした。

	<p>への人員体制、意思決定過程の整理など)の計画に問題はないか。</p> <p>2) 資金分配団体のアウトプットの指標・目標値・判断基準・指標入手手段は適切かつ妥当に設定されているか。</p>	<p>あるが、概ね良好。</p> <p>2)適切に設定されている。</p>	
<p>実施をととした活動の改善、知見の共有</p>	<p>1) 資金分配団体及びプログラムオフィサー(コンソーシアム内)は実行団体への支援を通じて得た情報を共有・活用し、学びを改善につなげることが出来ているか。(=コンソーシアム内共有)</p> <p>2) 資金分配団体は、他者へのモデルになる実行団体の活動とその知見を広く共有(外部向け)出来るように整理・蓄積しているか。</p>	<p>1)定例会を継続的に実施し、常に情報共有及び活動の改善を行っている。</p> <p>2)実行団体同士で、活動状況・工夫点などを共有する場を設ける予定。 例)鳥取県智頭町・臯月屋を舞台に。</p>	<p>伴走から得た情報の共有はフォーマット作成等で補完している。が、実行団体同士の情報・知見共有の場がないので、半林半 X ともに見本となる場での合同報告会などを実施する。</p>

<p>組織基盤強化・ 環境整備</p>	<p>1) 助成終了後も活動を継続していくための組織体制と環境づくり（行政などのステークホルダーや半林半 X それぞれの事業を実施するための環境づくり：山林確保、宿泊施設等）の検討がされているか。</p>	<p>自治体への働きかけ、関係づくり、活動資金の獲得など、持続可能な組織基盤づくりをサポートしている。</p> <p>実行団体にとって、本活動を通じて派遣する講師陣との関係性が、実行団体の成長に大きく効果を生んでおり、今後組織を継続するのに役立っている。</p>	<p>自治体によりけり動きの柔軟性には差異があるが、他自治体事例などを展開しつつ、呼びかけをしていく必要がある。</p>
-------------------------	--	---	--

2 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

情報共有フォーマットの展開
定例での現状共有

3 事前評価時には想定していなかった成果

・FORESTWORKERは、新たな林業希望者が増えた。
また、自伐型林業を行っている森で絶滅危惧種（日本リス？）の生息が判明。生物多様性を自伐型林業が守っていることが分かった。



4 事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する	<p>特になし</p>

5 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・実行団体同士で、活動状況・工夫点などを共有する場を設ける予定。
例)鳥取県智頭町・皐月屋を舞台に。
- ・資金分配団体としての地域の半林半 X 事業モデル事業実施について、広報活動の必要性を感じる。
- ・事業終了後の(実行団体の)出口戦略について検討の必要性がある

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



作業の様子 左から：橋本先生・宮川さん・森の持ち主親類・講習参加者（地元若手）



半 X 事業 < ももの宿 >



宿で提供される地元食材（百代表舩氏収穫）を使った朝食



講習翌日、次回橋本先生来訪時までの作業の進め方の確認@ももの宿